

近藤富枝一周忌追悼記念

近藤富枝と 『田端文士村』

～最後の田端人が書いたその作品世界～

芥川の小説よりは、
芥川の生涯の方がはるかに文学的だと、かねて思っていた。
そしていまは、そんなものより、
龍之介のきららかな人格そのものに深い興味を抱いている。

近藤富枝

平成29年5月12日(金)～10月1日(日)

田端文士村記念館 企画展示スペース

JR山手線・京浜東北線「田端駅」より徒歩2分

入場無料

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日：月曜日(月曜が祝日の時は火・水曜)、祝日の翌日(土日の時は翌火曜)、臨時休館日9/23(土・祝)

関連イベント

「伯母、近藤富枝を忘れない ～美を、田端を愛した人～」

7/23(日)14:00開演(13:30開場)

- 講師：森まゆみ氏(作家・編集者)
- 無料・事前申込制(詳細は裏面)

作家・近藤富枝は、芥川龍之介を軸として田端で繰り広げられた文士、芸術家たちの交流を『田端文士村』という作品に書き上げました。自らも田端人として生き、残したその作品世界を、登場する文士・芸術家の資料とともにご紹介します。



▲近藤富枝
『田端文士村』(講談社)
昭和50年発行

『田端文士村』取材風景▶
芥川龍之介旧居跡前にて



▲初公開『田端文士村』執筆時の取材ノート



▲室生犀星『田端村』原稿



▲芥川龍之介 室生犀星宛書簡(大正14年1月31日付)

近藤富枝 こんどう・とみえ

大正11年東京・日本橋区に生まれる。旧姓水島。昭和4年両親が離婚し田端523番地(現・5-6)にあった祖父母のもとに身を寄せ、滝野川第一小学校(現・田端小学校)に入学。東京女子大学を卒業。文部省に勤め、日本放送協会(NHK)のアナウンサーとなり、戦後結婚後も田端にしばらく過ごした。その後田端を離れたが40歳にして文筆業に入り、昭和50年講談社より『田端文士村』を上梓する。これは芥川龍之介を中心とする田端在住の文士、画人、彫刻家、工芸家など日本最初の文士村の姿を描いたもの。この作により平成11年に北区区民文化賞を受賞。また「古い田端を語る会」を提唱し、文士村の二世三世たちとの親睦をはかった。

文壇史にはじまり『源氏物語』や服装に関する著書なども多い。平安の和紙工芸である継ぎ紙の復活にも力をそそぎ、「王朝継ぎ紙研究会」を主宰した。

平成28年7月24日、芥川龍之介の命日と同日に逝去。享年93歳。



関連イベント

講演会「伯母、近藤富枝を忘れない ～美を、田端を愛した人～」

講師：森まゆみ氏(作家・編集者)

申込：往復はがきで7/10(月)必着。1通につき1名(同居家族に限り2名まで可)。

往信用裏面①講演会②住所③氏名(2名の場合は全員分)④電話番号⑤年齢

7/23(日) 14:00開演
(13:30開場)

返信用表面：応募者の住所・氏名

※6/1より郵便料金が改定となります。(はがき62円)



宛先・問い合わせ

田端文士村記念館

〒114-0014東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171

<http://www.kitabunka.or.jp/tabata/>

駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。